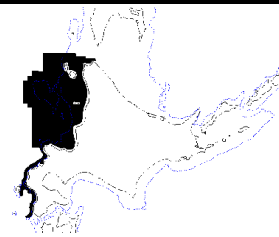


# 1. スケトウダラ

主な漁業と漁期  
 沖合底びき網：9～翌6月  
 刺し網：11～翌3月  
 はえ縄：11～翌1月



## 日本海海域 【日本海北部系群】

### 生態

#### ◆ 分布・回遊

石川県以北の本州および北海道の西岸、サハリン西岸、北部沿海州にかけて分布しています。ここでは、主たる分布域である渡島総合振興局管内福島町以北～宗谷総合振興局以南の日本海を日本海海域としています。

#### ◆ 産卵期・産卵場

◎産卵期は12～3月で、盛期は南で早く、北で遅い傾向があります。

◎産卵場は檜山沿岸、岩内湾、石狩湾、雄冬沖、武蔵堆、利尻島・礼文島周辺にあるとされていますが、資源が大きく減少した現在、主要な産卵場は、檜山沿岸、岩内湾、石狩湾であり、雄冬以北の産卵場は小規模と考えられています。

#### ◆ 成長・成熟

(3～5月時点)

	体長(cm)	体重(g)
2歳	21	113
3歳	27	178
4歳	32	290
5歳	35	377
6歳	38	465
7歳	39	518
8歳	40	538
9歳	41	581

\*) 1歳：3月時点の調査採集物の生物測定結果  
 2歳以上：1995～2002年3～5月の漁獲物測定結果

#### ◎ 成熟年齢

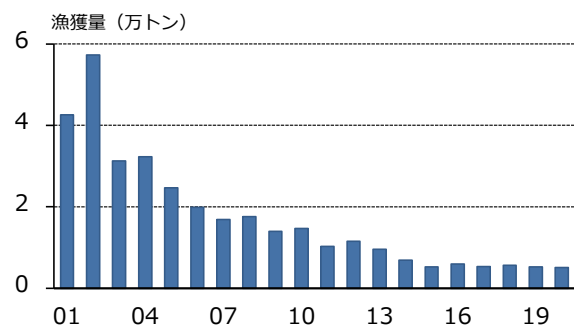
2歳から成熟する個体がみられ、5歳以上でほとんどの個体が成熟します。

### 資源評価

[評価年] 4月～翌3月

[資源量の指標] 産卵親魚量

2013年度以降、漁獲量は1万トンを下回っており、2020年度の漁獲量は5,115トンでした。資源水準は2004年度以降連続して低水準となっていますが、翌年にかけての資源動向は増加と判断されました。近年の漁獲強度は、資源回復を図る上で適正な水準に抑えられており、今後もこれを維持して、資源回復を図っていく必要があります。



2020年度  
 の水準



低水準

2021年度  
 の動向



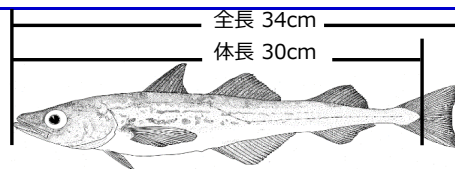
増加

※道総研が受託している国の資源評価調査のデータも利用して評価しています。

### 資源の維持・増大のために！

#### 資源管理の現状(主なもの)

- TAC (漁獲可能量) 管理  
 2021年漁期のTACは、大臣管理分4,346トン、北海道知事管理分は3,774トンです。(2021年10月現在)
- 資源管理協定 (2019年3月更新)  
 関係漁業者間で体長30cm又全長34cm未満の未成魚保護を目的とする漁場移動等を定めています。
- スケトウダラ日本海北部系群資源回復計画漁業者協議会  
 沖底漁業で、操業隻日数の2割削減、小型魚の漁獲が2割を超えた際の漁区単位での漁場移動などに取り組むことが合意されています。



☆高豊度年級群が発生しています。これを資源の維持・増大に繋げるには、漁獲強度を適正な水準以下で維持していくことが重要です。

問い合わせ先

北海道水産林務部水産局漁業管理課資源管理係  
 北海道立総合研究機構 稚内水産試験場調査研究部

電話 011-204-5477  
 電話 0162-32-7166